
真実を知ってください
コカイン
ブロー
フレーク
スニフ
チャーリー
スノー
jp.drugfreeworld.org

この小冊子が制作された理由

薬物についてのさまざまな情報が氾濫しています。学校や街中、インターネットやテレビで。その中には正しい情報もありますが、そうでないものもあります。

薬物に関して耳にするほとんどのことが、実は売人からのものなのです。かつての売人たち曰く、「買わせるためならどんなでたらめでも言う。」

薬物についての実態と真実を知ればまともな決断を下すことができます。この小冊子は、そのために制作されたものです。あなたのために。

あなたのご意見、ご感想は貴重です。ですからこの小冊子について感じたことをお知らせください。**jp.DrugFreeWorld.org** にアクセス、または **info@drugfreeworld.org** までEメールでご連絡ください。

コカインとは？

コカインは、南米のコカの葉からつくられる、非常に依存性の高い興奮剤です。コカインという用語は、粉状または結晶状の形態の薬物を示します。* 薬物の売人は、しばしばこの粉をコーンスターチ、タルカム・パウダー（滑石の粉）、砂糖のような物質やプロカイン（局部的な麻酔薬）やアンフェタミンなどの薬物と混合します。

コカインは、最初は麻酔薬として開発され、後に鎮痛剤として使用されました。通りでは、それは通常鼻から吸引され、そこでその粉は鼻の組織を通して血流に吸収されます。また口から摂取したり、歯茎にこすりつけたりします。コカインの吸煙は、フリーベージングと呼ばれます。

一部の乱用者は、その影響をより早く感じるためにコカインを注射します。これは過剰摂取の危険性を大幅に高めます。コカインには、時にはヘロインやフェンタニル、つまりヘロインの50倍も強力なオピオイドと混合されます。これらの組み合わせは特に危険で、多くの過剰摂取による死亡を引き起こしています。

* 結晶状のコカインはクラック・コカインと呼ばれています。詳しくは、この小冊子シリーズの「真実を知ってください：クラック・コカイン」を参照してください。

命取りの白い粉

コカインは危険な薬物です。研究によると、それは非常に中毒性があり、繰り返して使用することで脳の構造と機能を変える可能性を示しています。多くの人にとって、身体的にも精神的にも、その束縛から抜け出すことはほぼ不可能です。コカインは脳の主要な受容体（身体に変化をもたらす神経末端）を刺激し、一時的な多幸感を作り出します。耐性が急速に形成され、使用者は同じ効果を得るためにより多くの量を、より頻繁に使用する必要があります。

今日、コカインは世界中に広がり、何十億ドルも稼ぎ出す産業となっています。使用者はあらゆる経済層、職業、年齢層に及び、8歳という幼い学童さえいます。

コカインの使用は、呼吸不全、脳卒中、脳内出血、心臓発作などを起こすことがあり、それにより死に至ることがあります。コカイン依存の母親から生まれた赤ちゃんは、依存症になり、先天性欠損症や健康問題に苦しむ可能性があります。

その危険にもかかわらず、コカイン使用は増加の一途をたどっています。おそらく使用者は依存から逃れるのがとても難しいためでしょう。

通称

コカインの通称には、以下のようなものがあります：

- エンジェルパウダー
- ノラおばさん
- ビッグC
- ブロー
- Cダスト
- チャーリー
- コカイン
- コーク
- 埃
- フレーク
- モジョ
- ノーズ・キャンディー
- パラダイス
- スノー
- スピードボール（ヘロインと混合）
- 砂糖
- トゥート
- ホワイト

「あなたは、コークが知覚を高め、自己を超える力を与え、物事をコントロールできるようになると信じています。全くナンセンスです。しばらくすると、あなたはもはや請求書を支払わず、もはや自分自身を洗わず、友人や家族を手放します。あなたは無防備で孤独になります。」—ナイジェル



国際的な統計

コカインは、最も広く売買されている違法薬物のひとつです。最近のデータによると、世界中でのコカインの押収は増加し続け、合計2,026トンと増え続けており、最も多いのは南米での押収です。

欧州薬物・薬物中毒監視センターによると、コカインはヨーロッパでも2番目に多く乱用されている違法薬物です。

15歳から34歳の推定220万人が、過去1年間に少なくとも1度はコカインを使用したと報告されています。

米国では、「薬物使用と健康に関する全国調査」によると、12歳以上のアメリカ人のうち、550万人が1年以内にコカインを使用していたことが分かりました。18歳から25歳のうち、20人に1人が過去1年間に何らかの形でコカインを使用したと報告されています。



調査によると、ヨーロッパではクラブに行く人の大半がコカインを使用しています。

国立薬物乱用研究所の調査によると、コカイン使用の危険性を理解している10代の若者が増えている一方で、コカイン関連の死亡数は5年間で倍増しています。

増大する危険は、フェンタニルのような合成オピオイドを混ぜたコカインです。これらの物質と組み合わせたコカインの過剰摂取による死亡は、コカイン単独による死亡よりも急速に増加しています。

「私の友人は、4年間薬物を取っていました。そのうち3年は、コカイン、LSD、モルヒネなどのハード・ドラッグ、そして多くの抗うつ薬と鎮痛剤でした—実際、彼が手にできるものなら何でもです。彼は、ひどい痛みが身体にあると、いつも不平を言い、どんどん悪化し、ついには医者に行くまでになりました。

医者は彼に、彼のためにできることは何もない、そして彼の身体の状態が悪化しているため、そう長くは生きられないだろうと言いました。数日後、彼は死にました。」
—ドウェイン

なぜコカインはそんなにも依存性

コカインは、ヘロインやメタンフェタミン* と同様に、入手可能な最も依存性のある違法薬物の一つです。米国保健福祉省によると、過去1年間に550万人がクラックを含むコカインを使用し、1年以内にそのうち約100万人が依存するようになりました。



コカインは脳内の快楽中枢を活性化し、一時的な多幸症を引き起こします。使用者はすぐに耐性を形成し、同じハイに達するためにさらに多くの薬物を必要とします。

薬物の致命的な組み合わせ

コカインは精神安定剤やアンフェタミン、† マリファナ、ヘロインなどの薬物と混合されることがあります。こうした組み合わせは、コカイン使用の危険性を格段に高めます。二重の薬物依存になる可能性がある上に、薬物を混ぜることは致命的になり得ます。

が高いのか？

「私には、もう未来はありませんでした。私は、コカイン依存からどうやって抜け出すことができるのかわかりませんでした。すべてを無くしました。私は『爆発的』で、重度のコカイン乱用を続けるのを止められませんでした。動物が私の皮膚の下を這っているという幻覚がありました。注射するたびにそれを感じ、注射器で血が出るまで肌をこすり、なんとか追い払おうとしました。以前、このせいで大量に出血し、病院に運ばれました。」―スーザン



* メタンフェタミン：非常に依存性の高い中枢神経（脳と脊髄）刺激剤。
† アンフェタミン：中枢神経刺激剤。しばしば「スピード」と呼ばれる。メタンフェファミンよりも効力が弱い。

コカインの影響

コカインの短期的な影響は何か？

コカインは、短時間の間、強烈な高揚感を作り出しますが、そのすぐ後に逆のもの―ひどい憂うつ感、苛立ち、そして薬物へのさらなる渇望が続きます。使用者は食事や睡眠を適切に取ることができず、心拍数の増加、筋肉のけいれんやひきつけを経験することがあります。ハイでなくても、使用者は偏執症、* 怒り、敵意、不安を感じることがあります。



クラック・コカインの使用者は、心臓発作や脳卒中、発作、あるいは呼吸不全を起こす危険性が高くなり、それらのどれもが突然死に至る可能性があります。

コカインの長期的な影響は何か？

麻薬中毒者を意味する「dope fiend」という言葉は、もともとコカインの常習による副作用を説明するために何年も前につくられたものです。薬物への耐性が増すにつれ、同様の高揚感を得るために摂取量はだんだんと増加します。長期間にわたって日常的に摂取し続けると、睡眠障害や食欲の減退を引き起こします。人によっては精

* 偏執症：証拠や正当化なしに、極端に、そして不合理に、疑念を抱いたり、不信感を抱いたり、他の人々を恐れたりすること。

神に異常をきたしたり、幻覚症状が始まることもあります。

コカインは脳の化学的作用を変化させ、使用者が正常に機能するためにそれが必要だと感じさせます。コカインへの依存は、他の薬物と同じように、人生の他の領域に対する興味を失わせます。

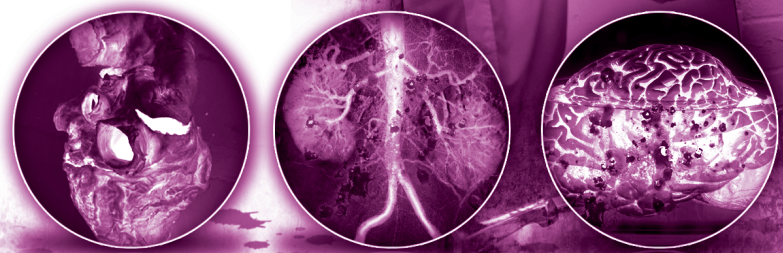
コカインの効果が切れると、ひどい憂うつ感が起こり、そのせいで、人々はさらに多くを手に入れるために、ほとんどどんなことでもするよう駆り立てられます。

彼らがより多くのコカインを得ることができない場合、憂うつ感は暴力や自殺につながることもあります。

「コカインに触るな！この薬物のために2年間も刑務所にいました。出所した後もつらいことが多く、またこの薬物を取り始めました。コカインのために売春婦になった少女を10人も知っています。それは人を信じられないくらい極端に堕落させます。それでも人は、コカインが自分の人生をどれほど台無しにしているかに気付かないのです。」
—ショーン

短期的な影響

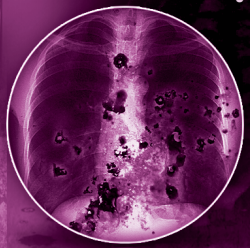
- 食欲減退
- 心拍数、血圧、体温の上昇
- 血管の収縮
- 呼吸が速くなる
- 瞳孔拡大
- 睡眠障害
- 吐き気
- 極端な興奮
- 奇怪でとっぴな、時に暴力的な行動
- 幻覚症状、過度の興奮、過敏性
- 皮膚の下を這う虫の感触
- 強い陶酔感
- 不安と偏執症
- 抑うつ
- 薬物への激しい渇望
- パニック、精神異常
- 過剰摂取は（一度でさえ）けいれんや卒中、時に死をもたらすことがあります



コカインは、心臓、腎臓、脳、肺を損傷する可能性があります。

長期的な影響

- 心臓および脳血管の永久的な損傷
- 心臓発作、卒中、死につながる高血圧
- 肝臓、腎臓、肺の損傷
- 鼻から吸引した場合、鼻組織の損傷
- 喫煙した場合、呼吸器の障害
- 注射の場合、伝染病やはれもの
- 栄養失調、体重の減少
- 重度の虫歯
- 幻覚（聴覚、触覚）
- 性的機能不全、生殖障害および生殖不能（男女とも）
- 周囲を正しく認識できなくなる、無気力、混乱から来る極度の疲労
- 気分の揺れとイライラ感
- 危険な振る舞い
- 一時的な精神錯乱あるいは精神異常
- ひどい憂うつ感
- 薬物への耐性の増加や中毒（一度きりの使用であっても）



子供たち：何の罪もない コカインの犠牲者たち

人々はよくこんなことを言います。「ああ、薬物をやっているよ。でもそんなの個人の自由じゃないか！」しかし、薬物の使用には、常に罪のない犠牲者がいます。依存者が習慣を維持するために犯す犯罪の犠牲になった人々、そしてコカインの影響を受けた運転者によって引き起こされた交通事故で命を失った人々。

コカインの最も悲惨な犠牲者は、妊娠中に薬物を使用した母親から生まれた新生児です。米国だけでも、すでにコカインにさらされている赤ちゃんが毎年何万も生まれています。依存症で生まれなくても、早産、低体重、発育不全、出生時の障害、神経系の損傷など、身体的な問題を抱えることがよくあります。

体重の少ない新生児たちが生後1ヵ月で死亡する可能性は、通常の新生児の20倍です。そして知的障害や脳の損傷など生涯続く身体障害の危険性も増加します。

このような悲劇が社会に及ぼす影響は計り知れません。

コカイン：簡略史

コカは最も古く、最も強力な天然興奮剤の1つです。約5,000年前、アンデスの古代インカの人々は、山の薄い空気に適応するために、コカの葉を噛んで、心拍数と呼吸を高めていました。

ペルーの先住民たちは宗教儀式の際にだけコカの葉を噛みました。スペイン兵が1532年にペルーを侵入した際に、銀鉱山で強制的に働かせるために先住民労働者にコカが与えられました。なぜなら、それは彼らをコントロールしやすく、搾取しやすくしたからです。

ドイツの化学者アルバート・ニーマンは、1859年に初めてコカの葉からコカインを抽出しました。それは1880年代に医療界で注目されるようになりました。

オーストリアの精神分析学者ジグムント・フロイトは、自らもこの薬物を使い、憂うつ感や性的不全を治療する強壮剤として、コカインの使用を幅広く推進した最初の人でした。



もともとアンデス地方の宗教上の伝統として始まったものが、世界中で乱用されるように変わっていったのです。

1884年、彼はそれを「Über Coca」(「コカについて」)という論文を発表し、それを「魔法のよう」と呼びました。フロイトは、その危険性に気付いたにもかかわらず、依然として親しい友人に勧めました。ある友人は、「白い蛇が皮膚の上を忍び寄っている」というひどい幻覚を経験しました。フロイトは「(コカインの)毒量が現れるのは大量摂取した場合で、致死量はないようだ」と信じていましたが、彼の患者の少なくとも1人が彼が処方した高用量で死亡しました。

1886年、ジョン・ペンバートンが新しい清涼飲料水であるコカ・コーラにコカの葉を加えました。

飲料の活力を高める効果は非常に人気を集めましたが、1903年までに、世論の圧力により、企業は清涼飲料水からコカインを除去することになりました。

1850年代から1900年代初期まで、コカインやアヘンを加えた製品が社会のあらゆる階層で幅広く使われました。

その利用が広まるにつれ、病院や医学文献は、鼻からコカインを吸引したことによる鼻の損傷の症例を報告し始めました。

コカインは無声映画産業で人気があり、ハリウッドはそれを宣伝し、何百万もの人々に影響を及ぼしました。

1912年、米国では、1年間に5,000人のコカイン関連の死



亡が報告されました。この薬物は10年以内に禁止されました。

コカインは1970年代に特に芸人やビジネスマンの間で人気となりました。薬物は、あわただしく刺激的な生活の格好の友であるように思われていたのです。アメリカのいくつかの大学では、コカインを試したことのある学生の割合は10倍も増加しました。

1970年代後半までに、コロンビアの薬物密売人は、コカインを米国に密輸入するネットワークを構築しました。

1980年代後わりには、コカインはもはや裕福層だけの薬物ではなく、貧困や犯罪、死と関連した、アメリカで最も危険で依存性の高い薬物として見なされるようになりました。

1990年代初め、コロンビアの薬物カルテルは、年間に500トンから800トンのコカインを製造し、アメリカだけでなくヨーロッパやアジアにも輸出しました。法執行機関は1990年代半ばに主要なカルテルを解体しましたが、小さなグループが現れました。現在、300以上の有名な薬物密売組織がコロンビアで活動しています。

コカインは、薬物依存、人命の喪失、そして薬物を売買する犯罪者が関連する暴力犯罪を引き起こしてきた歴史にもかかわらず、依然として世界で最も取引されている違法薬物の1つです。

薬物の売人がよく使う誘い文句

十代の若者へのアンケートによると、薬物に手を出すようになったそもそもの理由として、55パーセントが「周りの雰囲気に流された」と回答しています。彼らには「ダサい」と思われたくない、「カッコよく見られたい」、という願望があります。薬物の売人はそのことをよく承知しています。

売人たちは、友達のような顔をして近付き、親切を装って「いい気分になれるもの」を教えてあげると持ちかけてきます。その薬物を使うと「周囲から浮いてると思われなくなる」とか「仲間の中で目立てる」というのです。

薬物の売人はお金だけが目当てです。薬物を買ってもらうためなら、どんな嘘でも言います。彼らは「コカインをやると毎日パーティー気分でいられる」などと言ってくるでしょう。

売人は「お客さん」が払うお金にしか関心がありません。薬物のせいでその人の人生が台無しになっても気にしません。かつての売人たちは、薬物を買う人を「いいカモ」としか見ていなかったと証言しています。

薬物についての真実を知ってください。そうすれば自分自身で正しく判断できるはずです。



「コーク（コカイン）は人を、灯りに引き寄せられる蛾のように引きつけます。それを止めることはできません。身体ではなく、それは頭の中で。取れば取るほどほしくなるのです。私は10分おきに注射していました。コークほしさに銀行からお金を借りました。ある日、仕事をクビになり、状況はさらに悪くなりました。常に注射を打っていました。私はすっかり気がおかしくなってしまいました。頭ではわかっていてもやめられないのです。私は完全に堕ちてしまいました。」

—マリリン

真実を知ってください：薬物

薬物は基本的に毒です。その作用は、摂取する量によって決まります。

少し摂取すると、活動をより活発にする中枢神経刺激剤として作用します。多めに摂取すると、活動を抑制する鎮静剤として作用します。さらに多量に摂取すると毒となり命を奪います。

これはどの薬物にも当てはまります。こうした作用を引き起こすのに必要な量が違うだけです。

それだけではなく、多くの薬物には人のマインドにも影響を及ぼす弊害があります。薬物を取っている人が自分の周囲で起こっていることを知覚しても、それは歪んだものになってしまう可能性があります。その結果、その人の行動は奇妙だったり、不合理であったりするかもしれません。暴力的になることもあるでしょう。

薬物は、全ての感覚を遮断します。望ましい感覚も望ましくない感覚もです。そのため、短期的には痛みを和らげるために役に立ちますが、同時に人の能力や機敏さを消し去り、思考を不明瞭にします。

医薬品は、身体の働きを良くしようとして、何かを速めたり、遅くしたり、身体の働きを変えることを意図した薬物です。時には必要ですが、薬物であることに変わりはありません。中枢神経刺激剤や鎮静剤といった薬物を取り過ぎれば命を落とすこともあります。したがって、医薬品は規定通りに使用されない場合、違法薬物と同様に危険なものになり得ます。

本当の解決策は、
事実を認識し、最初から
薬物など使用しないことです。



なぜ人は薬物を取るのでしょう？

人が薬物を取る理由は、自分の人生を変えたいと思うからです。

若い世代の人たちが薬物を取る理由には、以下のものがあります。

- 周りとうまくやっていきたい。
- 問題から逃避、またはリラックスするため。
- 退屈を紛らわすため。
- 大人になったような気がするから。
- 反抗するため。
- どんなものか試してみたい。

こういった若者は、薬物が問題を解決してくれると思っているのです。しかし、結局のところ薬物は問題にしかなりません。

自分の問題に直面することが困難なこともあるでしょう。しかし、薬物によって解決しようとしている問題よりも、薬物を使用した方が常に悪い結果を招きます。本当の解決策は、事実を認識し、最初から薬物など使用しないことです。



この小冊子を含む薬物防止教育小冊子のシリーズは、これまでに20以上の言語で出版され、世界中で何百万部も配布されてきました。



新しい薬物が次々と世の中に出回っており、その影響に関する新たな情報が知られるようになっています。本シリーズはそうした新しい情報を盛り込んだ最新版です。

これらの小冊子シリーズは、カリフォルニア州ロサンゼルスを拠点とする非営利の公益法人「薬物のない世界のための財団」によって出版されています。

財団は、その国際防止ネットワークを通して各種教育資料や助言を提供したり、調整を行ったりしています。また、青少年や保護者、教育者やボランティア団体、政府機関ばかりではなく、薬物乱用のない人生を送ることに関心のある人なら誰とでも協力しています。

参照文献：

この小冊子をまとめるのに使われた参照文献：jp.DrugFreeWorld.org/refs

写真：2、8ページ：Corbis; 16ページ：Freud Museum Photo Library

知っておくべき真実

この小冊子を含む薬物防止教育小冊子のシリーズには、マリファナ、アルコール乱用、フェンタニル、危険ドラッグ、エクスタシー、コカイン、クラック・コカイン、覚せい剤、有機溶剤 / 吸入ガス、ヘロイン、LSD、処方薬乱用についての正確な情報がまとめられており、読者が自分の意志で薬物のない人生を送ることができるように役立つ内容になっています。

無料オンライン・コースを行う、または地域の薬物のない世界支部とつながるには、jp.DrugFreeWorld.org にアクセスしてください

薬物のない世界のための財団

jp.DrugFreeWorld.org • info@drugfreeworld.org

1 (888) 668-6378 • 1 (818) 952-5260

この小冊子をダウンロードするには ここをスキャン

© 2025年 Foundation for a Drug-Free World. 不許複製。Truth About Drugsおよび薬物のない世界のための財団のロゴは Foundation for a Drug-Free Worldが所有しており、使用にあたってはその許可が必要です。#S001562 - Japanese